

インフルエンザの流行とりんご病に注意しましょう!



県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↗ 140	54	百日咳	↗ 1	0
RSウイルス感染症	↗ 99	84	ヘルパンギーナ	↗ 5	1
咽頭結膜熱	↘ 11	26	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↘ 53	109
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗ 87	59	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↗ 548	532	流行性角結膜炎(はやり目)	↗ 38	36
水痘	↘ 8	25	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↗ 9	2	無菌性髄膜炎	↗ 2	1
伝染性紅斑(りんご病)	↘ 117	125	マイコプラズマ肺炎	↘ 7	8
突発性発しん	↘ 31	34	クラミジア肺炎	↗ 1	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↗ 5	3

報告が多い感染症
 感染性胃腸炎
 インフルエンザ
 伝染性紅斑

大きな流行が発生又は継続しつつある地域
 感染性胃腸炎 : 山鹿、菊池
 伝染性紅斑 : 菊池、宇城、熊本市、八代、山鹿、天草
 流行性耳下腺炎 : 山鹿

保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)
熊本市保健所	42	24	5	26	110	3		36	18		1	10		34		2	2	1	5
山鹿保健所	21	3			73			4	3			9	*	*					
菊池保健所	25	18	4	19	83		3	43	2		1	13		3					
阿蘇保健所	5				9								*	*					
御船保健所	6	2		1	36		1	1					*	*					
八代保健所	2	10	1	6	66			9	2	1									
水俣保健所	1	1		1	9			2					*	*			4		
人吉保健所		27		2	12			5	1			8	*	*			1		
有明保健所	32	7		1	73	3		2	3			9							
宇城保健所	2	3		8	40	2		11	1			2	*	*					
天草保健所	4	4	1	23	37		5	4	1		3	2		1					
計	140	99	11	87	548	8	9	117	31	1	5	53	0	38	0	2	7	1	5

年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)

インフルエンザ定点	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上
インフルエンザ	140	1	4	7	5	9	6	8	12	8	7	9	9	6	9	12	5	11	8	3	1
小児科定点年齢	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上						
RSウイルス感染症	99	13	23	42	11	4	5	0	0	0	0	0	1	0	0						
咽頭結膜熱	11	0	2	3	1	1	1	1	0	2	0	0	0	0	0						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	87	0	0	4	8	9	11	15	8	4	13	1	1								
感染性胃腸炎	548	2	35	94	62	34	43	28	25	23	18	24	76	28	56						
水痘	8	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0						
手足口病	9	0	0	6	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0						
伝染性紅斑	117	0	0	3	10	12	16	18	18	18	13	3	5	1	0						
突発性発しん	31	1	9	12	2	1	0	1	2	1	1	1	0	0	0						
百日咳	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
ヘルパンギーナ	5	0	0	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0						
流行性耳下腺炎	53	0	0	1	3	11	8	9	7	2	8	1	2	0	1						
眼科定点年齢区分	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	38	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	3	2	8	3	6	6	5	1	
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
マイコプラズマ肺炎	7	0	2	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
クラミジア肺炎	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	5	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

インフルエンザの流行期に入りました
 1月11日~1月17日の県内のインフルエンザ報告数は、140件となって流行開始の目安を超えました。前週1月4日~1月10日の54件に比べ、報告数は2.6倍に急増しました。11月30日~12月6日は3件、12月7日~12月13日は5件、12月14日~12月20日は7件、12月21日~12月27日は37件、12月28日~1月3日は53件と、7週連続で報告数は増加しています。
 保健所別では、山鹿、有明、菊池、熊本市、阿蘇、御船地域が流行開始の目安を超えています。今後、患者数が増加することが予想されますので警戒が必要です。
 例年、インフルエンザはこれから増加し始め、1月から2月にかけてピークを迎えます。インフルエンザを予防する有効な方法としては、①流行前の予防接種、②飛沫感染対策としての咳エチケット、③外出後の丁寧な手洗いが挙げられますので予防対策をしっかりと行い、流行に備えるようにしましょう。
 ※熊本県のホームページ「今冬のインフルエンザ総合対策に取り組みましょう」
http://www.pref.kumamoto.jp/kiji_13799.html

伝染性紅斑(りんご病)が増加しています
 伝染性紅斑は、幼児から学童の小児を中心にみられる流行性の発疹性疾患です。
 本県においては、昨年6月頃から増加しており、以後増減を繰り返しながら増加傾向が続いています。1月11日~1月17日においては、菊池、宇城、熊本市、八代、山鹿において警報レベルを超えています。
 伝染性紅斑は、10~20日の潜伏期間の後、頬がりんごのように赤くなるので、りんご病とも呼ばれています。続いて腕、脚にも両側性に網目状の発疹がみられます。発疹は通常、1週間前後で消失するといわれています。
 通常は、飛沫感染もしくは接触感染で感染します。妊婦さんが感染すると、流産の可能性もありますので、流行時には人混みを避けて、丁寧な手洗い励行、食器の共有を避けるなどの対策をとりましょう。